

1. 評価報告概要表

作成日平成20年12月11日

【評価実施概要】

事業所番号	4071101770
法人名	有限会社 めぐみ
事業所名	グループホーム のため
所在地 (電話番号)	福岡県福岡市南区野多目5丁目20-12 (電話) 092-565-0300

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成20年12月2日	評価確定日	平成20年12月25日

【情報提供票より】(20年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年1月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	7 人, 非常勤 3人, 常勤換算 7.7人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	315,000円	有りの場合 償却の有無	有 3年	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (6月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 82.1 歳	最低	66 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松田脳神経外科 さかい循環器内科 松永病院 夫婦石病院 前田歯科 うめ野クリニック
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の中に設立されたホームは、施設のような面持ちではなく家庭的な造りでホームの中も工夫が施されている。二階は居室になっているが、階段が中央にあり回廊となっており各居室が見通せる。管理者や法人代表者の思いが職員に伝わり、その中で暮らす利用者の表情は明るく出来る力を発揮し利用者其々が協力し職員が見守る中自分らしく生活している姿を確認することができた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目 :外部4)</p> <p>前回の評価では、4項目の改善点があったが、ホーム全体で話し合いができることから改善している。運営推進会議で報告し出席者からの提案で地域との交流を図る為の取り組みを行った。理念の見直しをホーム全体で見直し改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目 :外部4)</p> <p>自己評価、外部評価の意義等は管理者から職員に説明をし、全員で話し合い項目を確認してきている事、改善すべき点等確認している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目 :外部4, 5, 6)</p> <p>2ヶ月に1回開催している。出席者は民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表等でホームの現状、行事や外部評価等の報告、ホームが地域にできる事を検討し出席者から提案を受け取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法 運営への反映 (関連項目 :外部8, 9)</p> <p>管理者や職員は家族が面会に訪れた時に声をかけ意見、要望を聴き取ることを心がけている。苦情があった場合は苦情マニュアルを元に対応している。またピアリハットの報告等も行っている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目 :外部3)</p> <p>町内の行事や清掃活動、園芸活動等に職員と利用者が共に参加し地域の住民との交流を図っている。ホームに犬を飼っており近所の子どもたちが犬に声をかけホームに立ち寄ることもあり徐々に近隣の方々との交流の場が増えてきている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に管理者、職員で検討し作った理念に「地域との交流拠点としての開かれたホームを目指す」という項目めを付け加えた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目に付く場所に理念を掲示し、日々の業務の中で各自確認している。月に1回のミーティングでは、全員で話し合い、理念に沿っているか振り返っている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し町内の行事や清掃活動、園芸活動に利用者と職員が一緒に参加し、地域の方々にホームを知ってもらい機会を作っている。また、小学校に福祉体験学習の受け入れ可能である旨を説明し、いつでも気軽に立ち寄れるホームになっている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の説明を管理者が職員に行い、項目を職員が話し合い管理者がまとめた。外部評価の改善点も全員で話し合い即座に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、民生委員、家族代表、地域包括支援センター職員等の参加がありホームの状況、外部評価の報告やホームが地域に対してできる事を出席者と一緒に話し合い、助言や提案によりホーム全体で取り組みを行っている。		

グループホーム のため

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要に応じ区役所に直接出向いたり電話にて相談をしている。パンフレット等も持参しホームの状況を説明している。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加しホームにて伝達研修を行ったが、職員の周知にばらつきがある。必要な家族へは制度の説明を入居時に管理者が行っている。パンフレット等は常時見ることが出来る場所に置かれている訳ではない。		現在制度を利用している利用者がある為、職員に再度研修を行い周知、理解できるよう取り組んでいただき、パンフレット等はいつでも目に付く場所に置き誰でも説明できるようにすることを希望する。
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に利用者の現状や暮らしぶりを報告すると共に、通信を請求書と一緒に送付している。また、管理者が家族に手紙を沿え利用者の現状報告に努めている。金銭に関しては、預かり金は無く立替にしており領収書を貼付し請求時に送付している。職員の離入職は通信にて報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には職員は必ず声をかけ、意見や要望を聴き取るよう心がけている。ヒアリング報告や苦情マニュアルを元に対応している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職者は少なく、利用者とは馴染みの関係となっている。全職員が全利用者に関わっており担当制にしている為、離職があった場合は引継ぎを全職員で新職員に行っている。新職員は利用者とは会話することを重点に置き利用者とは馴染みの関係を早々に作れるようにしている。		

グループホーム のため

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	採用に当たっては、年齢、性別等特に条件は設けていない。職員の其々の持ち味や特技を活かし行事やレクリエーションの係りを決め職員が自由な発想で取り組んでいる。公休や有給休暇等希望を聞き取り、職員の要望に沿えるようにしている。		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	採用時に管理者が説明し、カンファレンスにおいても利用者への接し方や、言葉使い等職員其々が振り返り自分を見直す機会を作っている。		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人の系列のグループホームとの合同研修会を年に3回行っている。ホームでは、委員会を設け(感染対策、事故防止、身体拘束等)勉強会を行っている。外部研修は希望者が参加できるよう情報を伝えている。		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通して、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	同じ区内で介護事業者が集い情報交換や研修を行う「ふれあい会」に職員ともども参加し他のホームや他種事業所とも交流を図るネットワーク作りを行っている。		

グループホーム のため

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>自宅訪問、見学、体験入所(1週間)や家族からの情報収集にて本人と馴染みの関係を作り、本人が愛用しているものは出来るだけ持ち込んでもらい生活が途切れないよう工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者と同目線を同じにし、壁を作らないようにしている。利用者の昔話や生活の知恵を聞き教えてもらうことが沢山あり参考にしている。また、利用者と共に過ごし楽しさを共有することが出来ている。</p>		
関係					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人、家族との会話にて本人の意向を聞き取り、本人の表情や言動にて意向を把握している。意向や情報をアセスメントに具体的に記入している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員が本人、家族と話し合い、意向を聞き取りアセスメントの記入を元に計画作成者と職員が主治医の助言を参考に計画を作成している。カンファレンスにて全職員が意見を出し合い、計画を作り上げているが、サービス担当者会議録が無い為、話し合いの内容が確認できない。</p>		<p>担当者会議録を整備し、計画作成の為にどのように話し合ったか明確に記録することを希望する。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月のカンファレンスにてモニタリングを行い、短期目標期間ごとに見直しを行っている。また、状態の変化に伴うモニタリングを行い対応をしている。</p>		

グループホーム のため

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した場合は、ホームより洗濯物等を取りに行き医師と連携を取っている。家族の希望があれば、宿泊も可能である。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続、本人、家族の希望にて協力医への変更と本人本位である。協力医療機関の2週間に1回の往診と看護師との連携で24時間体制で利用者の状態の変化や緊急時に対応している。受診の付き添いも職員が行い、家族へ報告している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化に関する説明を行い、同意書を交わしている。また、状態の変化に伴いその都度家族、主治医等と話し合い意向を確認している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報を取り扱う際の同意書は交わし、写真掲載等行っている。個人記録は、事務所に保管しているが、事務所には鍵は掛からず、カウンター越しに記録物が見える。介護者が利用者に誘導する際の声の大きさや声かけの内容にプライバシーの配慮に欠けることがあった。		個人記録は書庫に保管するか目隠しを行い、目に付きにくくする配慮が必要である。利用者への声かけ等再度職員会議等で其々が確認し話し合い、プライバシーの確保の取り組みを行っていただきたい。
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはおおまかに1日の暮らしの流れはあるが、強制するものではなく本人に聴き取り、個別に対応し本人のペースで生活できるよう支援している。		

グループホーム のため

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者に下ごしらえや後片付け等できる事をしてもらい出来る力の維持に支援をしている。食事の時間はテーブルごとに職員が同席し同じ食事を一緒に食べている。食事の時間は特に和やかで、家族のような雰囲気である。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜日～土曜日まで時間帯の設定等は無くいつでも入浴できる。また、入浴拒否の利用者へは、声かけやタイミングを工夫して出来る限り入浴できるよう援助している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の能力に応じ洗濯物干しや洗濯物たたみ・畑仕事・調理の下ごしらえ等できる力を発揮できるよう援助をしている。楽しみとなっている誕生会やショッピングやドライブ等気晴らしの支援を行っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の買い物や散歩に出かけ外出の機会を作っている。また、季節感を味わえるような外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠はすることなく、職員が見守り利用者の安全に気を配っている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の避難訓練を実施している。近隣の方々に協力を呼びかけ協力体制は得られている。また、ホーム内で抜き打ちで職員がどれくらいの時間で駆けつけられるか訓練等も行っている。災害時の備蓄品として、飲料水と乾パン等準備している。		

グループホーム のため

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員にメニュー係りがおりカロリー計算をしながら献立を立てている。食事摂取量は利用者全員記録し、水分摂取量は必要に応じチェックしている。		職員が研究し献立を立てているが、将来的に利用者の状態に合わせてコントロールする可能性もあると思われる為、栄養士などの専門家に一度見てもらっては如何だろうか。また、献立に汁物の無いことがあるが、嚥下や水分摂取の観点からも汁物を添えては如何だろうか。
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの玄関は家庭的な作りで明るく、段差が無く利用者が自由に出入りできる。リビングや廊下には絵画や季節感のある飾りが施されている。リビングや2階の廊下窓は広く明るい日差しが入り、心地よく過ごすことができる。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者個々に居室には、馴染みのものや、使い慣れた道具や小物等が持ち込まれ其々の暮らしが入居前から継続されている。		